

第 3 回 江別市経済審議会 観光専門部会 議事録

日 時 平成 29 年 10 月 2 日(月) 14:00～15:06

場 所 江別市役所 第 2 別館 会議室 2 号

出席者 (敬称略・順不同)

平澤 亨輔 (札幌学院大学 経済学部 教授)

中野 亮二 (江別商工会議所 中小企業相談所 所長)

塩越 康晴 (江別消費者協会 会長)

和田 美和 (江別消費者協会 理事)

松浦 智幸 (一般社団法人江別青年会議所)

岡村 恵子 (江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会 加工部会長)

事務局／江別市経済部商工労働課

事務局オブザーバー／株式会社 JTB 北海道 3 名

次 第

1. 開会

平澤部会長が開会を宣言し、第 3 回江別市経済審議会観光専門部会が開会した。

2. 江別市観光振興計画の具体的取組案等の検討について

(1) 江別市の新たな観光像

事務局・根廻より、観光振興計画素案でまとめられている江別市の新たな観光像について、考え方の背景とそこから導き出されたコピーの趣旨等の説明があった。また、第 2 回の部会で、そのコピーに一部再考の余地があるのではないかという意見が出されたことを踏まえて、別案が 7 案提示され議論を行った。

<主な意見>

- 補足説明ができるショルダーコピー付きの案にしてはどうか。(和田委員)
- 江別を想像してもらいイメージが伝わってきた。その中で「歴史にふれる自由時間」、「食と農の豊かな実り」というフレーズが特に印象に残った。「こち好い江別」は使いたい。(岡村委員)
- 「食と農の豊かな実り」では、食と農の実ること、それによって江別も実るという連想にもつながるのでいいイメージを持った。(松浦委員)
- 「食と農の豊かな実り」、「歴史にふれる自由時間」は、いずれも耳に響きのいい言葉であると感じた。(中野委員)
- 「自由時間」は、江別の歴史以外の魅力までイメージを広げることができるし、耳障りもいいと思う。(塩越委員)

議論の結果、素案で作られたメインのフレーズとして「すぐ近くにある歓びと発見。こち好い江別。」を生かしつつ、「食と農の豊かな実り」、「歴史にふれる自由時間」を使ったショルダーコピーをつけることが確認され、事務局は次回修正案を提示することになった。

(2) 具体的取組案の検討

事務局オブザーバーの(株)JTBC 北海道より、具体的取組案の説明があった。取組案は、第2回の部会で議論された結果を踏まえて修正された内容に、今後6年の事業計画イメージを加えて提示された。

また、取組案の一つである「サイクルツーリズム商品化の推進」に関連し、8月に実施された台湾の大学生によるサイクルモニターツアーの実施結果について事務局・根廻り報告があった。

<主な質問・意見>

○事業計画イメージに、取組の検証方法や6年後以降の方向性などは盛り込まないのか。

(松浦委員)

→取組案では検討・協議から実施までを記載することとしている。取組が適切に行われているかなどの検証については、その機能を有することを推進体制の章に記載することにしており、検証の内容を踏まえてそれ以降の展開を考えていくことになる。(事務局)

○各取組案の検討・協議はどのような体制で行われるか、また各事業の実施主体はどうなるのか。

(中野委員)

→次年度の予算編成から詳細の検討に入るので、計画書の段階では概要までの記載と考えている。(事務局)

●「江別スイーツの魅力発信」のところで、“可能性を訴求する”とあるが、もう少しイメージのわかる具体的な表現にしてほしい。(平澤部会長)

●体験プログラムを実施するにあたって、効率よく運営するために、当事者だけでなく広く一般の方のサポートや情報共有などを含めた体制づくりも必要で、そのことにも触れてほしい。また、EBRIの活用も記載してほしい。(岡村委員)

○「自転車等を活用した交通手段の充実」では、サイクルシェアリングの導入も考えているのか。

(中野委員)

→サイクルシェアリングの導入や電動アシスト自転車の活用なども含め、様々な可能性を含めて検討していきたい。(事務局)

○「ブランド化の推進」について、江別のブランドを具体的にどう捉えていてどのように進めていくのか。

(平澤部会長)

→取組案にある「食」と「農」のプロジェクトでその課題に向き合うことを想定している。現在の江別の魅力、ブランド力をどう考え、それをどのように成長させていくのか、そのために何が必要かを導き出す取組として位置づけている。(事務局)

○「二次交通の整備」で、高齢者や障がい者を対象にした視点の取組の検討も必要ではないか。

(岡村委員) (塩越委員)

→次回検討して提示する。(事務局)

以上の質問・意見等を踏まえ、表記内容等の修正を行い、次回あらためて提示することになった。

(3) 推進体制・計画書の構成

事務局オブザーバーの(株)JTBC 北海道より、観光振興計画を推進する市民、民間、行政それぞれの基本的な考え方である「推進体制」と、これまでの議論を踏まえて 11 月に作成する「計画書の構成」について説明があった。

<主な質問>

○推進体制の中で、「民間の役割」の観光関連団体は具体的にどこのことか。また組織体制の充実強化とあるがどのように考えているか。(中野委員)

→観光協会、商工会議所等を含め、来年度具体的に協議する。(事務局)

○推進体制の中で、ボランティア、学生、NPOや、大学の記載も必要ではないか。

(平澤部会長)

→次回検討して提示する。(事務局)

3. 閉会

平澤部会長より、部会閉会を宣言し、第3回江別市経済審議会観光専門部会を閉会した。

以上